

## 電話による副作用モニタリングを導入した新たな薬-薬連携モデルの有用性評価の研究

### 研究対象

2013年12月2日～2014年12月31日の期間に国立がん研究センター中央病院消化内科・肝胆膵内科においてS-1を投与された患者さんの診療録を対象とします。

### 研究の概要

近年、経口抗がん薬や支持療法薬の開発が進み、外来での抗がん剤治療が主流となっています。薬自体の特性から、抗がん薬の副作用は、重篤化したり、治療の継続や患者のQOLに影響したりすることがあるため、外来抗がん薬治療においては、セルフマネジメントを含めた副作用対策が不可欠です。一方、経口抗がん薬においては、服薬アドヒアランスと治療効果に関係があることが近年報告され、薬剤師による服薬管理・指導（Pharmaceutical care）の徹底が求められています。

わが国では、医薬分業が進み、2010年現在、医薬分業率は60.7%に達し、抗がん剤の調剤・服薬指導は主に調剤薬局で行われています。しかし、調剤薬局で得られる患者情報は、処方箋に記載される内容にとどまり、必要な情報は患者自身から聞き取らなければならず、調剤薬局でPharmaceutical careに基づく安全な外来抗がん薬治療を行うことを難しくしています。

以上より、検査値や治療歴を把握する病院薬剤師と、実際に服薬管理・指導を行う薬局薬剤師との連携が強く求められています。

国立がん研究センター中央病院では、服薬に関して発生した問題点の解決や副作用の早期発見を目的として、S-1内服患者を対象に薬局薬剤師が電話にて患者の副作用モニタリングを行い、その結果を病院薬剤師にフィードバックするという新たな薬-薬連携モデルを構築するための臨床試験を行っています。そのモデルの有用性を評価するため、今回、臨床試験に参加された患者さんと、臨床試験を行う前の患者さんの副作用の重症度を比較します。

### 研究の意義

今回の研究によりS-1を服用する患者さんの治療効果や副作用の状況を得ることができます。この情報を広く公開することでより安全な治療を行うことができるようになることが期待できます。

## 目的

本研究は、国立がん研究センター中央病院消化管内科および肝胆膵内科において、薬薬連携モデルの導入前後の S-1 を使用した患者さんの副作用を患者さんの診療録（カルテ）をさかのぼって調査することで薬-薬連携の有用性を明らかにすることにあります。

## 方法

2013年12月2日から2014年12月31日の期間に国立がん研究センター中央病院消化管内科・肝胆膵内科で S-1（商品名：ティーエスワン<sup>®</sup>）を使用した患者さんの診療録から必要な情報を集めさせていただき、統計解析を行います。

## 個人情報保護に関する配慮

診療録の閲覧は個人情報を伴いますが、薬剤師などの医療従事者が行い、情報収集項目に個人情報は一切含めません。対象となる患者さんの識別は研究目的に特に割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。また、このホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて、患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにします。

## 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 薬剤部 牧原 玲子

FAX:03-3248-0730 / TEL:03-3542-2511（内線：3041）

e-mail: reando@ncc.go.jp